

パブリックコメント実施と結果について(意見と回答)

No	項目	意見の趣旨	意見に対する県の考え方
1		<p>学童期のスポーツの現状及び課題については、よく記述されている。とりわけ、スポーツ少年団等、地域スポーツの抱える課題が明確にされている。スポーツ少年団は、競技技術の向上に大きく寄与している一方で、指摘のとおり「練習時間の長さや日数の多さ」などから、子どもたちや保護者への過度の負担を強いている。</p> <p>推進計画(案)では、「具体的施策の展開」にかかる記述が不足している。今後は、地域スポーツ(スポーツ少年団)は競技技術の向上を目指す子どもたちのためのものとして統合整理し、小学校ではクラブ活動として小学校単位で、誰もが気軽に参加できる仕組みを作っていく必要がある。様々なスポーツができるような取組を、小学校が中心となって実施していただきたい。</p> <p>「具体的施策の展開」で、こうした一歩踏み込んだ取組を記述し、展開していくことを要望したい。</p>	<p style="text-align: center;">推進計画に追記します。</p>
2	生涯スポーツ(学童期のスポーツ推進)	<p>スポーツ少年団、クラブの現状として、低学年から専門種目しかできない環境(練習日が土日があるため)による、親の負担が非常に大きく、また、家族で触れ合える時間が少なくなっている。</p> <p>また、勝利に拘りすぎて、平等に練習を行う工夫もなく、試合ではメンバー固定で勝利優先主義に陥っている。そのため、コーチからの罵声や、保護者からのプレッシャーにより、子どもがスポーツを楽しむ環境からかけ離れてきている。なおかつ、子ども同士でのレギュラーと控えの間でわだかまりもできており健全なスポーツ活動とは言い難い状況も出てきている。なかには、本来子どもが活動しないといけな地域行事には参加させず、練習を優先させ、地域活動に親だけが参加しているチームもある。</p> <p>スポーツ少年団に加入しているチームのなかで、県外遠征に多いときは月2回(宿泊を伴う)程度、保護者の運転により遠征を行っているチームもある。</p> <p>上記のような活動を行っているのは、学校の教諭が多く関わっているチームに顕著に表れているのは問題である。そのため、子どもが小学校の活動でバーンアウトに陥って中学校で部活動に加入しないか、又は、文化系の部活動に進む傾向が強くなっている。あわせて保護者の間では、スポ少は大変だという風潮が広まっており、保護者が子どもをスポーツ系の部活動に加入させないという状況も出ている。</p> <p>上記課題に関する提案として</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「小学校のスポーツ活動の手引き」の遵守 2. 第3日曜日を休みとする(中学生と歩調を合わせる) 3. 地域でのボランティア活動に参加し報告させる(写真を添付し証明できるものを添付) 4. 年1回指導者講習会に参加(大会参加条件にする) 5. 少年団への登録条件として1～4を遵守させる <p>具体的な手法として</p> <p>P6～10の具体的施策の展開を行ってほしい。</p> <p>また、小学校3年生くらいまでは、専門種目だけではなく、コーディネーション運動を取り入れて、運動能力の向上を図っていただきたい。</p> <p>また、地域の公民館、体育協会と連携を図り気軽にスポーツや遊びができるように、企画をしていく。さらに、親子でスポーツに触れ合うように啓発をしていく(親子で遊ぶことで子どもがスポーツに興味を持つようになる)</p>	<p>県では平成21年3月に「小学生スポーツ活動の手引き」を発行し、学童期におけるスポーツ活動について示していますので、このことを追記します。</p> <p>また、学校でもレクリエーションスポーツやニュースポーツを取り入れていくことで、全ての子どもたちが運動の楽しさを実感できるような場の確保をしていくことを追記します。</p> <p>計画書P10に記述している、地域での活動では、運動習慣の乏しい子どもたちに運動に親しむ場を増やしていくために、総合型地域スポーツクラブ、放課後児童クラブ・子ども教室、公民館等で、さまざまな運動の機会を提供するなど、発達段階や多様なニーズに対応できるような場の確保と併せて、推進していきます。</p>

No	項目	意見の趣旨	意見に対する県の考え方
3	生涯スポーツ	<p>スポーツ文化をすべての県民を対象に広く推進していくにあたり、このライフステージは「子育て」のある人に限定されているように感じる。つまり、ライフステージに「独身期」「子育て前期」「後期」「終了期」の文字があることで、対象とされている県民が、結婚して子どもが生まれることが前提とされたライフステージとならないだろうか。確かに、そうした県民が大多数であることは間違いないが、一生独身の方や子どもが欲しくても恵まれない方もいらっしゃるの、そうした方への配慮が必要なのではないかと感じた。</p> <p>多くの県民が、計画を身近に感じ「自分のためのもの」と捉えるためにどのような表現がよいのか、今一度ご検討いただきたい。</p>	<p>表記を変更します。</p> <p>「ライフステージ」の設定については、本計画の策定を進める中で、島根県スポーツ推進審議会でも多くのご意見をいただき、議論を深めてきました。また、「ライフステージ」に関しては、決まった区分がないため、それぞれの分野において適切な区分を設けているのが現状です。</p> <p>本計画の「ライフステージ」は、生涯スポーツライフには子どもの存在が非常に強く関係していること、県の各種指標との比較を考慮して設定していますが、さまざまなライフスタイルに、より適応させるために、ライフステージ区分の表記を一部変更します。</p>
4	学校体育・競技スポーツ	<p>島根県では、ある程度のスポーツレベルまでは、行けると思うが、日本のトップを始め、世界レベルの領域に達するためには、英才教育、つまり環境と指導力、ライバルたちの中での試合や練習が必要だと思う。</p> <p>例えば、テニスの錦織圭選手も外国にわたり、高いレベルの中での練習や試合を通して、強くなったと思う。国内では、女子ゴルフの宮里藍選手を始め、沖縄生まれにも関わらず、高い環境レベルを求めて、東北の高校にゴルフをするために行ったことは誰もが知っている。</p> <p>ライバルたちがしのぎを削る環境やスポーツに理解を示す学校、指導者などがはたして、島根県で整うとは考えにくい。</p>	<p>計画の推進にあたって留意します。</p> <p>計画書P27に記述しているとおり、指導者の中心となる教員に「特別体育専任教員配置制度」や「スポーツ推進教員認定制度」を実施して、指導者を継続的に同一校に配置する制度を設け、優秀な指導者を確保していきます。さらに、指導者の配置状況や競技専門部(競技団体)及び学校の事情等を考慮し総合的に判断して重点校を設置します。また、研修会等を通して、選手・指導者・環境等、それぞれの側面を支援する組織づくりや連携を深め、島根に根ざしたスポーツ文化の育成を図っていきます。</p>

No	項目	意見の趣旨	意見に対する県の考え方
5	学校体育・競技スポーツ	<p>中学校の部活動の場合、旧松江市内では公民館が充実しており、モデル的に施策を行える環境がある。具体的には、中学校とPTAを事務局にし、公民館・各地元体育協会・スポーツ推進委員・スポーツ少年団・教師経験者(地元在住)等をメンバーにし、小学生のスポーツ状況を把握し、地域に根差した活動を目指す。そのうえで、地域で何のスポーツが適切か検討し、部活動のありかたを考える。また、指導者についても、地域の実情に精通した情報が集まることにより、各種情報が入手しやすくなり、指導者の確保がし易くなる。そのことにより教師の負担軽減が図れるとともに、専門的な知識を持った指導者が確保でき、スポーツの普及と競技力の向上が図れると考えられる。併せて、地域スポーツクラブと連携し、地域でスポーツに触れ合う状態を整えることも必要と考えられる。</p> <p>高等学校の部活動の場合、各地域との連携を図ることは難しいことと思われる。対応策としては、社会人チームとの連携を深め、練習試合などを通じて、経験豊富な社会人チームに教を請うことが必要である。なおかつ、社会人になってからの受け皿先を見つけることも可能と思われる。また、各競技団体と連携を密にして高校だけの枠にとらわれず、各競技団体との意見調整を密にしていきたい。併せて、競技団体から専門的な知識を持った指導者を定期的に派遣してもらうように調整をもらいたい。</p> <p>私立高校との調整及び連携を必ず行ってもらいたい。中学生指定競技や重点校について、何を根拠にして決めて行くのか十分な検討をお願いしたい。また、「スポーツ特別推薦制度」について、私立高校を含めて、県としてどのように整理していくか十分な検討をお願いしたい。併せて中学校の重点校との整合を図った計画としていただきたい。</p> <p>重点校1校ではなく、少なくとも2校以上の選択肢を選べるようにし、お互いをライバル視することで県全体のレベルが上がると思われる。</p> <p>一概に各家庭が裕福ではなく、費用が多くかかる高校、寮生活などによる費用がかかる高校には進学を見送る場合もあるため、多様な選択肢を用意してもらいたい。県独自の奨学金制度(医大生の制度を参考に)創設など。なお、スポーツだけの能力ではなく学校生活、勉強を加味した成績で判断していただきたい。</p>	<p>計画の推進にあたって留意します。</p> <p>ご指摘のとおり、指導者の確保については指導者の育成と同様に今後も継続的に取り組んでいく必要があります。「運動部活動地域スポーツ指導者派遣事業」では、これまでは国の事業を活用して実施していましたが、H24年度より県の予算もプラスして事業を実施しています。それにより、前年度より派遣数を増やすことができ、また、指導者の同一校複数配置も可能となりました。これらにより充実させるために地域スポーツ人材リストの活用や県体育協会等との連携をより一層進め、地域に根ざした指導者の確保にもつながるよう検討を進めていきます。</p> <p>また、高等学校では異動ルールにとらわれず同一校で長期的な指導が可能となる「特別体育専任教員制度」や「スポーツ推進教員認定制度」の利点を活かし、指導者の確保及び指導者の育成に努めます。</p> <p>指導者の指導力の向上については、前述の事業の一環として指導者研修会を毎年開催しています。これは地域の指導者のみならず、顧問教員が受講しても参考になる内容ですが、教員の参加はわずかです。今後は教員の参加を一層促し、研修機会を充実させます。</p> <p>また、「運動部活動指導者育成事業」で実施している教員研修会の内容を検討し、中体連及び高体連の連携を進め、さらなる充実を図ります。</p> <p>競技力向上に関しては、公立高等学校、私立高等学校にかかわらず、強化対象として連携を進めています。私立高等学校の入試に関しては、各校の考え方に基づいて実施されますが、スポーツ活動の推進に関しては、今後も総合的に推進していきます。</p> <p>高等学校の重点校については3年に1度見直しを図っており、指導者の配置状況や競技専門部(競技団体)及び学校の事情等を考慮し総合的に判断して決定しています。重点校設置及びスポーツ特別推薦制度の趣旨である競技力の向上を図るため、いただいたご意見を参考に検討を進め、より実の伴う制度となるよう努めます。</p> <p>独自の奨学金制度は考えておりません。既存の奨学金制度、福祉制度の周知を図っていきます。</p>

No	項目	意見の趣旨	意見に対する県の考え方
6	総論	<p>幼児期の運動習慣の重要性を考慮して、保育所での具体的な方策が必要。</p> <p>水球、アーチェリー、レスリング等の育成に全精力を傾け、メダリストを輩出し、それによって地域おこしを図る。また、県の地勢を利用してビーチバレーを国体種目になるくらい全国に広げる。</p> <p>島根スサノオマジックの選手やトップアスリートや指導者が安心して生活していける環境作りが必要。 日本や世界のスポーツ動向を伝え、実践していける人材を育成してほしい。</p> <p>フェイスブックを活用して、指導者コミュニティをつくる等、お金のかからない方法でITを活用すべき。</p> <p>学校開放について、夜間や休日の利用時間を延長してほしい。</p>	<p style="text-align: center;">計画の推進にあたり留意します。</p> <p>P7の「具体的施策の展開」に記述しているとおり、保育所、幼稚園への積極的な働きかけを行います。</p> <p>競技力の向上に関しては、県内の状況を踏まえ、取組を進めてまいりますが、これまで成果主義に基づいた重点競技中心から、未普及競技を含めた国体競技全般において普及・強化に努めたいと考えています。</p> <p>指導者の確保や指導者の指導力向上についても、P26の「具体的施策の展開」に記述しているとおり、推進していきます。</p> <p>島根県体育協会を中心に各種会議を開催しており、一層のコミュニティづくりを推進します。</p> <p>学校開放については、各学校の事情や、教育活動を妨げない範囲で今後も開放していきます。</p>
7		<p>スポーツ普及の推進は子どもたちへの幅広い熱心な指導だと思ふ。そのためにはやはり指導者が必要だ。県政の積極的な対応が欠かせない。</p> <p>また、競技スポーツはピンポイントで重点育成を行いスター選手(団体)を出すことが、県民全体の関心盛り上がりスポーツ意識の向上になると思ふ。</p>	<p style="text-align: center;">計画の推進にあたって留意します。</p> <p>計画書P29に記述しているとおり、各関係団体と連携を深め、多様な研修機会を設け、指導者の理解や資質の向上を促します。</p> <p>また、計画書P26に記述しているとおり、中・高校生において、中学生指定競技や重点校の指定など強化事業を推進します。さらに、スポーツに秀でた選手を有望校に入学させる「スポーツ特別推薦制度」を実施し、全国規模の大会で活躍する選手(団体)の育成を図っていきます。</p>

No	項目	意見の趣旨	意見に対する県の考え方
8	総論	<p>ただ計画を策定するだけでなく、各年度で計画(案)が確実に実行されているか、各教育委員会、教育事務所が現場(試合会場や練習会等)に出て効果が表れているか、確認してもらいたい。</p> <p>競技団体の各年代ごとに大会数、カップ戦数、県外遠征回数、費用の制限などをかけないと、ますます、子どもがスポーツから遠ざかっていくことになる。</p> <p>高校生が中学生の練習相手になる、中学生が小学生の練習相手になる、高校生が小学生と触れ合うことも積極的に行ってほしい。身近に手本になる相手がいることで、更に興味が湧き、技術が向上することが多いためである。県内に在学している、島根大学、県立大学、専門学校に積極的に地域に関わってもらい、子どもたちに、スポーツの楽しさを教えてもらいたい。また、この経験が教師や保育士等になるうえで有効であり、将来、地域で指導者として根付いてもらう良い機会となると思う。なおかつ、将来、子どもが地域に戻ってくるきっかけにもなると考えられる。</p> <p>スポーツを幼児期から青年期まで続けていけるような環境が大事である。子どもがいつ上達するかは、子どもによって違うということを再度認識し、指導者が勝利に拘りすぎず、自分のエゴを押し付けない指導を行うよう教師及び指導者の研修を充実してもらいたい(大会参加条件にする等)</p>	<p>計画の推進にあたって留意します。</p> <p>計画が適切に進行し、最大の効果が上がるよう、その都度検証していきます。また、県内の各組織が協力して生涯スポーツ、競技スポーツの推進が図れるよう、連携を強化していきます。</p> <p>県が平成21年3月に発行した「小学生スポーツ活動の手引き」が実践されるよう啓発に努めます。</p> <p>ご意見のとおり、各競技団体の普及・強化の一環として取り組みます。</p> <p>本計画では、スポーツをライフステージごとにとらえており、指導者の育成に関しては、計画書P29に記述しているとおり、各関係団体と連携を深め、多様な研修機会を設け、指導者の理解や資質の向上を促します。</p>